



～小・中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

# 第12号 学びのコンパス

～カリキュラム・マネジメント特集～



嵯峨野小学校 の実践例から.....

## 事例32 英語教育での授業改善と、教科を横断する授業づくり

学科横断的

嵯峨野小学校では、外国語活動において「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童」を育てるため、授業改善や教員のスキルアップに取り組むとともに、カリキュラム・マネジメントの視点から、教科を横断する授業づくりに取り組んでいます。

### ○ 授業改善について

#### ◆インプット・アウトプットを意識した授業

単元の中で1時間の目的を明らかにしてゴールに向かうため、授業の中でインプット、アウトプット、言語活動の場面の違いを明確にしている。

#### ◆パフォーマンステスト

「聞くこと」や「話すこと」について、児童が目指す姿に到達しているかどうかを指導者が把握し、授業改善に生かしている。

3・4年生はALTの質問に答える形で、5・6年生は、児童が話し合いをリードする形で数回のやりとりを目指す。担任は児童の到達度を見るとともに、対話に困っている児童のサポートを行っている。



### ○ 教員のスキルアップについて

#### ◆研修前のスマートトーク

研修の前に、教員同士がペアを作り、教員が英語で話すことへの抵抗感を減らすことや、決まったテーマについてポイントをつかむことを目的として、スマートトークをしている。英語部の教員がデモンストレーションを行ったり、どのような表現が使えるかワンポイントアドバイスをしたりしている。

#### ◆クラスルームイングリッシュ

各クラスにあいさつ表現や指示表現を短く、わかりやすい英語でまとめた、クラスルームイングリッシュ表を配っている。褒め言葉一つでも“Good.”だけでなく“Very good.” “Good job.” “Well done.” “Excellent.”など、教員が教室の中で使う英語表現が豊かになるようにしている。



## 教科を横断する学びとしての外国語活動と「嵯峨野PASS」

外国語活動の時間の学びと他教科での学びを相互に活かすようにしている。各単元の「ゴール」を設定する時には、他の教科と関連させるよう工夫している。

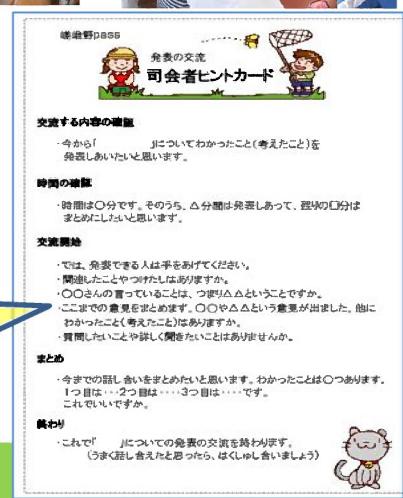


育成学級では、生活単元や図画工作科と関連させて活動を設定。6年生では「京都の文化を外国人に紹介しよう。」というゴールを設定し、総合的な学習の時間での活動と関連させている。

#### ◆「嵯峨野PASS」

複数の教科を横断して活用できる、主に対話的な学びをサポートするカード。教科横断的な学びを目指して、学校でつけたい資質・能力を明確にし、すべての教科でその力を育てられるように取り組んでいる。

- ・使用例：国語で活用した話し合いカードを活用し、社会や理科でも同じ方法で話し合いを行う。
- ・司会カード、話し合いカード、ふりかえりの書き方カード、考察カード、考えの説明カードなどを作成している。（詳細は学校へ）



### 取組を振り返って

- ・<全国学力・学習状況調査 平成31年度児童質問紙から>  
「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国人の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」  
対全市指標 112
- ・『嵯峨野PASS』については、主に対話的な学びを活用するカードであるが、今後、いろいろな資質・能力の向上を目指したカードにしていきたい。児童にとって活用しやすいよう、学年に応じた内容、発表のヒントになる内容などの改善を検討していく。

## 向島藤の木小学校 の実践例から.....

### 事例33 カリマネの視点で、児童の実態から授業改善を考える

PDCAサイクル

向島藤の木小学校では、アンケートや校内研究のあり方を見直すなどの方法で児童の実態を分析し、カリキュラム・マネジメントの視点で授業改善につなげる取組を行っています。

#### ① ふりかえりアンケートの結果からつなげる

4年生以上を対象に、「学習に関するふりかえり」アンケートを実施（項目は、学習状況調査質問紙、ジョイントプログラム質問紙を参照）。

【学習に関する項目】  
主体的・対話的で深い学びに関する項目を記載

学校評価支援システムを活用して、集計と分析

(例)

問⑧ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。（6年生 1月実施）

結果の分析

ICTやホワイトボードなどを活用して協働的な学習を展開し、考えを伝える場の設定をしてきたことは、児童の学習意欲を高めるために効果的であったといえる。

回答	1月	4月
よく出来ている	約30	約65
大体出来ている	約55	約55
あまり出来ていない	約25	約20
出来ていない	約5	約5



4月の学習状況調査の結果と比較すると、「よくできている」との回答が大幅に増加！

#### ② 児童の様子(実態)からつなげる

校内研修を“児童の姿を通して授業を検証する”方法に変更

主体的な姿

対話的な姿

深い学びの姿

- 参観者が上記の「3つの学びの姿」の視点を選択して授業を検証することで、参観者自身が主体的に授業を捉えるようになった。
- 指導者の予想と実際の様子にギャップが見られ、授業を組み立てた上で大きな視点となった。

関連単元配列表には、習得単元（主に算数）を設定

#### ③ 教科学習以外の取組ともつなげる

「つけたい資質・能力」や「学力定着」「習得と活用」などの課題解決に向けて、関連単元配列表を活用することで、教科学習だけでなく、様々な取組との関連性を意識できるようにした。

##### 取組を振り返って

- 児童の学習意欲の向上が見られた。

〈全国学力・学習状況調査 平成31年度児童質問紙から〉

「算数の授業は好きですか」 対全市指標 173 (前回比 +114)

- 取組と取組をつなげていくことで、実態に考慮した児童につけたい資質・能力が明確になり、授業改善や取組の見直しなどにつながった。児童の姿から次の方向性を検討し、PDCAサイクルで授業改善を行い学力向上につなげていきたい。

## 事例34 地域と生徒をつなぎ、「学び」を「見える化」して振り返る

地域資源の活用

桃山中学校では、「学校と地域、生徒と地域をつなぐ」カリキュラム・マネジメントに取り組むとともに、生徒が自己の成長を実感することができる振り返りの時間を設定するなど、PDCAサイクルを機能させる工夫を行っています。

### ① 地域とともに学びを広げるカリキュラム・マネジメント

学校教育目標「ともに生きる～仲間とともに、地域とともに～」

#### 社会貢献できる生徒の資質・能力の育成

##### 学校と地域をつなぐ

###### ◆子どもの実態に合わせた目標を設定

- ◆地域に向か、連携・協働の呼びかけ
  - 学校運営協議会やPTA役員会でカリキュラム・マネジメントの研修
  - 地域主催「音楽のつどい」生徒の発表だけでなく地域の方の発表の場を設けるなど、地域と生徒の交流が深まる場になるよう工夫した。



##### 地域と生徒をつなぐ

- ◆生徒が主体的に取組を企画し、地域や社会との関わりを考え深める
  - 「プレイランド桃山」学校運営協議会や地域女性会の協力のもと、地域の保育園児や高齢者を学校に招待した。

### ② 生徒が自己の「学び」を「見える化」して振り返る

—PDCAサイクルを機能させる工夫—

- テストの点数では測ることができない、学校教育活動全体を通じた成長を「見える化」して振り返る活動を行った。自己の「学び」のマネジメントのきっかけとして、生徒自身が振り返りの視点（※）ごとに付箋にまとめた。
- 教職員も事前に、生徒と同様の振り返りを行った。



- 生徒の振り返りの中に、上記①の取組での成長を書き込む姿が見られた。
- 教職員の振り返りにも、年間の授業の見通しをもつ、時間のマネジメントなど、カリキュラム・マネジメントの視点をもつ様子が見られた。

※ 振り返りの視点  
(付箋に色分け)  
■ どう成長したか  
■ なぜ、成長したか  
■ 来年度、頑張りたいこと

#### 取組を振り返って

- 地域を学びの場として取組を進めてきた中で、学びに対する自主性や主体性、地域との交流について生徒自身が成長を振り返る姿が見られた。  
<生徒の振り返りより抜粋>  
「自分が成長することができるは、周囲のたくさんの人がいるからなのだと実感できた」
- 生徒が主体的に「学び」を深めていくけるよう、地域の方々の支援も受けながら成長することができる、様々な教育活動の内容や方法を工夫していきたい。

# すべての教職員で取り組む、カリキュラム・マネジメントって？

これからの社会を生き抜く子どもたちに必要とされる資質・能力  
⇒ 「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」など



## 学校全体で目標を設定して、意図的にみんなで取り組む

子どもの実態や  
課題に合わせて、  
学校で育成を目指す  
資質・能力を  
設定

学校で育成を目指す  
資質・能力をもとに  
学校教育目標を設定、  
全教職員で共有

実際の授業で、  
すべての教職員が  
共通認識のもと、  
授業改善に  
取り組む

## ■組織的・計画的に「学び」を展開するために ーカリキュラム・マネジメントの3つの視点ー

### ●教科横断的に取り組む

関連単元配列表の活用等  
(関連事例: 32, 33)

### ●PDCAサイクルで取り組む

教育課程レベルと授業改善レベルの  
どちらも、実施状況を評価して改善を  
図っていく (関連事例: 33, 34)

カリキュラム・マネジメントは、  
3つの視点で取り組むことが  
大切です

※ここまで3校の事例は、  
カリキュラム・マネジメントの3つの  
視点のうち、各校の中心となる視点を  
入口として掲載しています。

### ●地域の人的・物的資源の活用も視野に入れる

「社会に開かれた教育課程」 (関連事例: 34)

市民ぐるみ、地域ぐるみの教育を推進してきた、本市の強みを活かせる

## ■カリキュラム・マネジメントと働き方改革

- 学校教育目標に照らし合わせて、授業や行事、会議などを精選する
- 年間の授業の見通しをもつ、時間のマネジメントの意識をもつ、など  
⇒ 教育活動の質を高めるとともに、「働き方改革」にもつながる

すべての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点をもち、  
学校全体で子どもの学びの質を高める

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★  
光京都イントラ>●3 各課のページへ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

★作成に御協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！

★ユニークな学力向上実践をされている学校は、  
学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 令和元年8月・第12号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課  
教育改革担当(Tel: 222-3851)